

# 荒瀬ダム撤去許可

## 熊本 全国初、来年度着工へ

国土交通省九州地方整備局は5日、熊本県宮荒瀬ダム(八代市)について、河川法に基づき本体撤去工事に関する許可書を同県に交付した。老朽化したダムの全国初の撤去例となる。

撤去工事は2012年度に開始する予定。県が9月に九

命がセットの求職者支援制度を開始。生活保護の手前でのネット(安全網)としての役割が期待されているが、厚労省は生活支援戦略の実行で、さらに重層的な安全網構築を図る。

自立を支援するための就労支援や住宅相談、ホームレスの一時保護などをさまざまな支援メニューを体系化して整理。困難者を支援するNPOや社会福祉法人も育成する。経済産業省などと連携し、多様な就労機会の創出を目指す。戦略は5〜10年程度の計画を策定。生活困窮者のニーズに応じた支援態勢を築くため、数年単位の目標値を盛り込んだ中期プランも整備する。

州地方整備局に申請し、同局は「安全面や工法に問題はな



工期は6年間で、12年度はゲート(水門)の撤去に着手するほか、上流にたまった水を徐々に流すための水位低下設備を設置。13年度以降、ゲートを支える門柱などの撤去を計画。

蒲島郁夫知事は「地元や県民との約束である、来年度からのダム撤去のため準備を着実に進める」とのコメントを出した。

また、蒲島知事は5日の県議会一般質問で、ダム撤去費用の資金不足額が約10億円から約7億円に圧縮されたこと

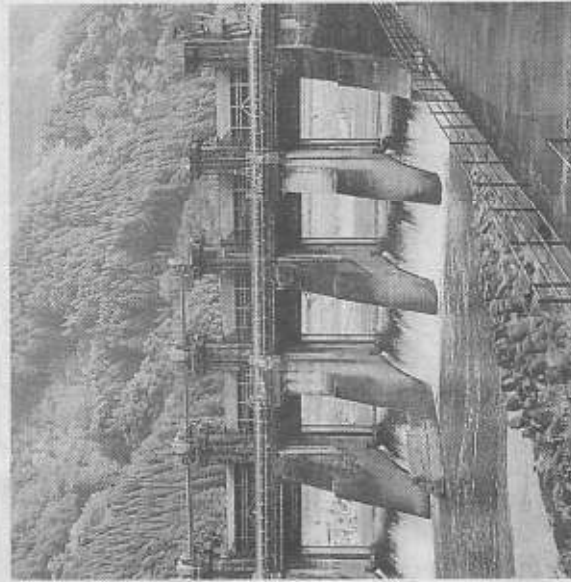
試算を明らかにした。

県企業局は「荒瀬ダムなどの維持管理費の削減や、県が所有する土地の処分によって約3億円が捻出できる見込みとなった」としている。

県企業局によると、総事業費は約85億円で、内訳は本体撤去費用17億円のほか、着工済みの護岸対策が約18億円、道路のかさ上げなどの浸水対策が約11億円など。

### スーム

荒瀬ダム 1955年に球磨川下流の熊本県旧坂本村(現八代市)に完成した同県が管理運営する発電専用ダム。施設が老朽化したため、潮谷義子前知事が2002年、既設のダムとして全国で初めて撤去する方針を表明した。08年に就任した蒲島郁夫知事は「いったん存続に転じたが、10年2月に撤去に方針転換。同3月末から発電が停止され、ゲートも開放されている」。



熊本県宮荒瀬ダム＝5日午後、熊本県八代市